長崎高教組新聞

発行
長崎県高等学校教職員組合
〒850-0013 長崎市中川2丁目2番5号
長崎高教組会館
☎ (095)-827-5882
Fax(095)-826-2976
編集責任者　佐藤真一郎
購読料　一部１０円
組合員は組合費に含む
メールアドレス
naga-kks@fsinet.or.jp

謹賀新年

組織拡大と分会・支部の強化を

長崎県高等学校教職員組合執行委員長　**鍛治保則**

新年あけましておめでとうございます。コロナ騒動も一段落した年末でしたが、オミクロン株の登場で、今年もウィズコロナを意識した生活を送ることになりそうです。

さて今年は、長崎高教組組織建設「新３か年計画（２０２０～２２）」の最終年度を迎えます。組合員の皆さんのご協力で、この２年連続して加入者二ケタを達成することができました。ありがとうございました。この結果は喜ばしいことですが、長崎高教組の将来を考えると、皆さんにもうひと踏ん張りしていただかなければなりません。

１月の定期中央委員会では、皆さんに長崎高教組の現状をお示しいたします。ＳＤＧｓではありませんが「持続可能な」長崎高教組にするため、いま必要なことについて議論していただきたいと思います。キーワードは変わらず、「組織拡大」と「分会・支部の組織強化」です。私は、さまざまな職場の課題を解決するためには「組合はなくてはならない」と思っています。その思いに共感し組合員の皆さんの声かけに応じて、ここ数年の間に若い先生方が十数名仲間に加わってくださいました。こうした先生方に長崎高教組を安心して引き継いでいただくため、皆さんの力を結集して、さらなる仲間を迎えられるよう奮闘していきましょう！新たな年の初めにあたり、あらためてお願いいたします。

子どもの実態から出発する学校づくりを

全日本教職員組合（全教）中央執行委員長　**宮下直樹**

コロナ禍のもと2回目の新年を迎えました。子どもたちは、いつ終わるのかわからない見えないウイルスとのたたかいの中で、マスク越しの生活のもと直接的コミュニケーションが制限され、おとなの何倍もの不安を抱えているのではないでしょうか。ひとり一人の子どもに寄り添い、「子どもの最善の利益」を保障するため奮闘されているすべての組合員のみなさんに心から敬意を表します。

昨年は、41年ぶりに義務標準法が改正され少人数学級実現へ大きな一歩を踏み出した年となりました。また、長年の念願であった特別支援学校設置基準が策定されました。どの子も大切にしたいとの保護者・教職員・地域の方々などの願いと私たちのとりくみが、ジェンダー平等や再配分を求める運動など、いのちを守り、多様性の尊重・個人の尊厳の保障を求める社会的世論と結び、大きな力となりました。さらに、全校種での少人数学級の実現や、すべての特別支援学校の環境改善が求められます。

これまでの教育政策の矛盾が教員未配置問題や若者の教職離れとして顕在化しています。長時間過密労働解消は待ったなしの課題です。教職員を抜本的に増やし、教職員に自由とゆとりを取り戻すことが必要です。今、職場要求を練り上げ要求する全教の役割は、教員免許更新制廃止に追い込んだとりくみなどでもいっそう鮮明です。子どもの実態から出発する学校づくりをすすめ、職場要求を掲げ仲間を増やすとりくみをすすめましょう。

全教は昨年創立30周年を迎えました。結成時に行動綱領は「耐え難い多くの犠牲をはらって戦争は終わり、・・新しい憲法と教育基本法をうけて、個人の尊厳を重んじ、真理と平和を希求する人間の育成を期する民主教育が発足した」としました。憲法改悪の動きが加速している今、「教え子を再び戦場に送るな！」の誓いのもと、憲法と子どもの権利条約をいかし、幅広い共同のとりくみをすすめる1年にしましょう。

尊敬する先生方に誘われ

花畑と牛舎にて。とても優し気な末永涼子さん。

「新しい仲間の嬉しいコメント」

私が初任の時、指導しサポートしてくださった先生方は、皆さん組合に入っていらっしゃいました。日ごろからお世話になり尊敬している先生方に、組合に入らないかと誘われ、軽い気持ちで加入しました。

組合に入って良かったことは、県内外問わず、先生方との「つながり」ができるという点です。奈良県や滋賀県、東京で行われた青年部の学習交流会に参加し、何度か発表もさせていただきました。同じような悩みを持っている青年部の先生と話をすることで、「明日からも頑張ろう。学んだことを目の前の生徒に還元しよう。」と活力が湧いてきます。

私は現在、島原農業高等学校に勤務しています。組合員は、私を含め2人しかいません。もう一人の先生は、牛舎の担当をされているので、たまに牛舎に遊びに行かせていただいています。先日は、牛の出産の現場を見させていただきました。初めての体験で、とても感動しました。また、同僚の先生方の仕事を見せていただき、専門性の高さに刺激を受け、自分を見つめなおす良い機会になっています。組合に入ったことで、初めての経験をたくさんさせていただいています。良い経験を積み重ねることで、良い教師になれるように日々精進したいと思います。

末永　涼子（すえながりょうこ）・島原農業高等学校

第223回定期中央委員会

日時　1月22日（土）午前10時半～午後4時半
場所　諫早市高城会館（大会議室）
議案　第1号議案　２０２２春闘及び当面の運動方針に関する件
第2号議案　２０２１年度組合会計暫定予算に関する件
第3号議案　２０２２年度本部役員選挙公示に関する件
第4号議案　専従役員補償に関する件

各分会の中央委員、支部長、支部書記長、専門部長のすべての皆さんの参加で活発な討論をして、会議を成功させましょう。

定通部の県教委交渉

定通部（左）と県教委＝12月8日、県庁

弱い立場の生徒たちを代弁

定通部は、県教委交渉を12月8日に県庁で行いました。釣船部長をはじめ7人が出席しました。「安易な統廃合に反対」「20人以下学級の実現」「県費でのエアコン設置」など、弱い立場に置かれている生徒たちを代弁する12項目を要求し交渉しました。

統廃合についての県教委の回答は次の通り。「募集定員については、毎年中学生の在籍数の推移…（中略）…総合的・多角的に勘案して決定しているところで…（後略）」「学科の新設や改編については、県全体の学科の配置状況…（中略）…各学校の意見も聞きながら慎重に検討しております」何度も聞いたような一般論を列挙した答弁で、しかも「統廃合」に関する要求なのに「募集定員」や「学科の新設・改編」での回答…。統廃合される側の生徒や保護者の思い、地域の状況等を受け止めて誠実に対応しているとは、とても思えないものでした。

また、佐世保中央高校のエンカレッジコースについて、定通部は廃止もしくは別課程としての設置を要求し、他校への導入に反対して交渉しました。県教委は、エンカレッジコースを「幅広いニーズに応えている」と肯定し「課題等については必要に応じ改善に努めたい」と述べました。また他校への導入は、「精度を高める」ための交渉継続を高教組と約束しています。賃金への反映基準も継続協議のままです。運用に向けての対応も含め議論を重ねましょう。この他、確定交渉のとりくみや臨時的任用職員の待遇改善についても述べています。議論を深めましょう。

「今後の高教組の在り方」（P39～40）

組合の「力」の維持・回復、支部・専門部・執行部の後継者育成、組織の在り方や財政など、次世代へバトンリレーするのにふさわしい組織建設について積極的な討論をお願いします。

その他 長時間労働（P16～20）、GIGAスクール構想（P25）、少人数学級（P29～32）など。

1号議案（運動方針）のポイント

1月22日、諫早市高城会館にて、第223回定期中央委員会が開催されます。事前の議案書の討議を各分会、支部でお願いします。ポイントは次の通りです。

組織拡大・強化のとりくみ（P1～7）

全教共済や署名などを通した「見える活動」、コロナ禍でのとりくみ、活動の負担軽減など、大会以降の活動を総括し、到達点と課題を示しています。また、これらを踏まえ、今後の高教組の在り方を提起しています。

教職員の生活と権利を守るとりくみ（P8～13、P16～19）

「人事評価制度・賃金リンク」に関して述べています。導入が強行されましたが、県教委は「佐世保中央での成果等」も踏まえて検討すると述べました。何を「成果」とするかなど、定通部は厳しく問い質し、意見を重ねましたが、あまり歯切れのいい回答は得られませんでした。

交渉の詳細は、「定通部だより」でお知らせします。

中高35人以下学級と教職員増を要求

堀江県議（共産）が紹介、賛成

文教委員会。左端手前が紹介、賛成いただいた堀江ひとみ県議。

高教組は今年度も、集約された署名3153筆を12月9日に県議会に提出し、「ゆきとどいた教育を求める請願」を行いました。県議会文教厚生委員会の審議において、「小学校での35人学級実現に続いて、中学校・高等学校の35人以下学級をめざす計画を策定すること」と「教職員を増員すること」の2点に絞って趣旨説明を行い、その中で、統廃合を行わず学校を残すことで地域の拠点を維持すること、業務量を削減でき教職員の長時間労働の是正につながること、などの利点を強く訴えました。

趣旨説明終了後、質疑に移り、2人の委員が質問し回答を教育委員会に求めました。「少人数学級が本当に教職員の負担減につながるのか」といった内容でした。討論では、1人の委員が「賛成できない」立場から発言しました。採決では賛成委員が堀江ひとみ県議（共産）ただ1人で、請願は不採択となりました。

今年度も、反対の委員は、私たちが趣旨説明で強く訴えた点にまったく触れず、多数決での否決という状況でした。このことは父母、教職員の納得が到底得られないものです。

長崎県議会では、長崎県の人口減少をいかにくい止めるかが大きな議題になっています。同じ問題を抱えている21県では、2020年度までに小学校1年生から中学校3年生までの全ての学年で35人学級が実現しています。人口減少対策と教職員の負担軽減のためにも、35人学級の実現を訴え続けていきましょう。

全教青年部 中四九ブロ 学習交流集会

教育は無限だが教員は有限

今年度の中四九ブロ青年学習交流集会は、岡山県が担当でしたが、オンラインによる開催となりました。最初に岡山高教組の青年部長が「昨年度、岡山県で開催する予定で、みなさんが楽しんでくれるようなものを準備しましたが、中止となり残念でした。今年度はオンラインでの開催となりましたが、学んで、楽しんで、つながって欲しいと思います。」とあいさつし、開会しました。

記念講演では、名古屋大学大学院准教授の内田良さんが、『学校現場のリスク』について話しました。勤務時間内には終わらない仕事を、教員は「子どもたちのために」と思ってやっているが、それは本当に子どものためになっているのか。教育は無限だが、教員は有限であり、できることは限られている。「子どもたちのために」と自分は好きでやっていると思っている仕事が、いつしか自分の体や心を壊していく。過労による「うつ・自死・死亡」は、人を選ばない。また、残業は感染する。コロナ禍で、学校行事などが削減していたが、現在、感染症が落ち着いてきたことでコロナ禍前の学校生活に戻そうとしている。それは、本当に必要なことなのか。

内田さんの講演を聞いて、自分の働き方について考えさせられました。自分のクラスの生徒を見ていると、できていないところがたくさん目について、「自分の指導力不足だ。子どもたちのために、もっと頑張らなきゃ」と思っていました。子どもたちと向き合う私自身に余裕がなくなると、うまくいっていたことも、うまくいかなくなることに気づかされました。今回、学習交流会に参加して、自分自身を見つめなおす機会を得ることができ、よかったです。次は、現地に行き、全国の青年部の皆さんと交流したいと思います。

末永 涼子（島原農）